



# 鶏 鳴

けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## イエスの言葉

『花婿と一緒にいるのに婚礼の客は断食できるだろうか』

聖書(マルコ福音書 2章 19節)

牧師 河合裕志

その頃、洗礼者ヨハネの弟子達は熱心に断食していた。ヨハネは都会を離れ荒れ野に住み禁欲的な生活をなし断食を欠かさなかった。ファリサイ派の弟子達も断食に励み毎週月曜と木曜の2回、行っていた。

しかしイエスの弟子達はどうか。これが全然という感じ。イエスがやらなかったのが弟子達もやらぬ。これでいいと思うのだけれど人々の中には余計な世話を焼く者がいる。「なぜ、あなたの弟子達は断食しないのですか」とイエスに言って来た。熱心に断食したらどうです？ その方が宗教家らしいんじゃない？

イエスとその弟子達がまるっきり断食しなかった訳ではない。年一回の贖罪日には断食したろう。「第七の月の十日にはあなたたちは苦行する」と律法(レビ記 16章)に定められ、この日には罪を清めるための贖いの儀式が行われた。罪を悔い改め罪の清めを願う、そのために苦行、断食が全国的になされた。イエスはむやみやたらに反律法主義ではないのでこの程度のことは守ったろう。ただファリサイ派の徒のように熱心にしようとは思わなかった。それが真の熱心とは考えられず、またイエスは彼らの姿に偽善

を見ていた。彼らはわざわざ顔を白く塗り、ボロを着、目立つ格好をして断食をしていることを人々にアピールしていた。

イエスには宗教って断食なの？、苦行なの？、という思い。そうではなくて喜び、というものではない？そこからこんな言葉が飛び出した。『花婿と一緒にいるのに婚礼の客は断食できるだろうか』。花婿はわたしイエス、婚礼の客はわが弟子達。この両者が一緒にいる婚礼、婚宴の場。そこには喜びしかないでしょう。断食の入りこんで来る余地はある？それは全くの場違い。花婿と客が共に喜ぶ。イエスと弟子が共に喜ぶ。共に手を取り合って喜んで生きて行く、これがイエスの願い。

客を花嫁に昇格させてもよいかも。「キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたち」とパウロは記している(ローマ書6章)。洗礼式は花婿イエスと花嫁私達との結婚式。これを境に私達はイエスを連れ合い、パートナーとして新生活に入っていく。世の連れ合いもいけれどこの連れ合いイエスは未来永遠にわたって伴い、不断に慰めと力を与えてくれる。自分の命を与える程に愛が深い。この花婿と共に喜びの日々を歩んで行けたら。

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時  
子どもの教会：日曜日午前9時  
求道者会：日曜日午前9時40分  
中高青年会：日曜日礼拝後  
お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時